

# おいしく安全安心な米を生産しましょう

玄米の放射性セシウム濃度は、土壤中の放射性セシウム濃度ではなく、土壤中の交換性カリ含量に大きく影響されることが試験研究により明らかにされています。

稲に放射性セシウムを吸わせないためには、土壤の交換性カリ含量を十分に(25mg/乾土100g以上に)高める必要があります。

福島市では、令和3年産米への市内一律の塩化カリ無償配布は行いません。  
カリ不足とならないように基本技術に沿った米づくりをしましょう!

## 1 施肥により土壤の交換性カリ含量を高めましょう。

### (1) 基肥はしっかり施肥して下さい(カリ成分8kg/10a 目安)。

基肥に含まれるカリ成分は放射性セシウムの吸収抑制に大いに役立ちます。

### (2) 以下の①～⑤のような田んぼは、稲が放射性セシウムを吸いやすいため、塩化カリの散布が必要となる可能性があります。心当たりがある方は、下記問い合わせ先にご相談ください。

#### ① 令和3年に原発事故後初めて作付を再開する水田

#### ② 令和元年東日本台風等の被害から復旧後初めて作付を再開する水田

#### ③ 稲わらをほ場外へ持ち出し、たい肥を施用していない水田

#### ④ 砂質土壤など保肥力の弱い水田

#### ⑤ 十分な施肥を行ってこなかった水田

## 2 稲わらやたい肥を施用し土づくりを行いましょ。

おいしいお米を作るためには土づくりが基本です。稲わらやたい肥等の施用を心がけましょ。

稲わらやたい肥は、カリ成分を多く含みます。

逆に稲わらを水田から持ち出し続けると、土壤の交換性カリ含量が低下して、稲が放射性セシウムを吸いやすくなるおそれがあります。稲刈り後は、速やかに稲わらをすき込みましょ。

稲わらを水田から持ち出して畜産農家等に提供するときは、たい肥と交換して水田に還元ましょ。

### ■豆知識■ カリ肥料のはたらき

- (1) 稲の体を強くする。(いもち病等にかかりにくくなる)
- (2) 根の働きが良くなる。(下葉の枯れ上がりを防止する)
- (3) もみ殻を大きくしたり、もみの奇形を少なくする。
- (4) 穂数、籾数、千粒重の増加が期待できる。



### 問合せ先

県北農林事務所 農業振興普及部  
福島市 農政部 農業振興課

電話:024-521-2608  
電話:024-525-7720